

No. 1106

動物愛唱歌

3月20日東京・上野動物園は、開園以来93周年を迎え、その日を記念して、明治・大正・昭和の長い歴史を“動物愛唱歌”で刻む「歌でつづる上野動物園史」が催されました。

常盤の緑いや深き 上野の山の清水谷……と歌われた明治時代、飼育動物は僅か400点。

動物園ののどかな午後は……と文部省唱歌に歌われた大正・昭和・その頃年間300万人もの人が動物園へやってきました。しかし、苦難の太平洋戦争では大きな動物は殆ど殺され、僅か280点に減ってしまいました。戦後昭和24年インドのネル首相からゾウの“インディラ”さんが、そして昭和47年には日中国交回復を記念してパンダが友好の贈物として届けられ、今では6,800点もの動物が飼育されるようになりました。楠トシエさんやデュークエイセスのおじさんの歌に、子供たちは楽しい一刻を過しました。

ケ大、全早大に圧勝

日英親善ラグビー

英国・ケンブリッジ大学ラグビーチームの歓迎レセプションは3月22日、名古屋市内の名鉄グランドホテルで行なわれました。加藤中日新聞社長の歓迎の挨拶に対し、ケ大イアン・ピア団長が贈物をし、歓迎レセプションはなごやかなムードの中に行なわれました。これより先、21日東京国立競技場ではケ大対全早大の日英親善ラグビー第一戦が行なわれました。ケ大は立ち上がりからバックスのすぐれた個人技、スピードで全早大ゴールラインを脅かします。平均身長で7センチ、体重で13キロと勝るケ大は大柄な者にありがちな動きの鈍さは感じられず、スピードに乗った攻撃で全早大を攻めたてます。これに対し全早大も必死の反撃、左右のオープン攻撃で、ゆさぶりをかけ、前半14分にはケ大陣内のラックから右に回し、ライン参加した植山が藤原ヘラストパス。藤原がインゴールへ飛び込み両軍を通じて初のトライかと思われましたが、これが痛恨のスローフォワードとなって全早大はチャンスを逸しました。

満を持していたケ大は18分左オープンからヒグネルが左スミにトライ（ゴール）これを足場にゴールを重ね、前半19対0と早くも大差をつけます。後半に入ってもケ大は攻撃の手をゆるめません。全早大は勢いのついたケ大に思い通りに走りまわられ点差は開く一方。結局52対3。スピードとディフェンスの固さを誇る全早大は1PGだけの惨敗。伝統の差か、英国の名門ケ大は底なしの強さを見せつけました。